

下垂体腺腫の迅速組織診断に有用な迅速鍍銀法の開発

◎今川 奈央子¹⁾、神澤 真紀²⁾、塚本 龍子¹⁾、大浦 季恵¹⁾、猪原 千愛¹⁾、猪原 哲嗣¹⁾、吉田 美帆¹⁾、伊藤 智雄²⁾
国立大学法人 神戸大学医学部附属病院¹⁾、国立大学法人 神戸大学医学部附属病院 病理診断科²⁾

【はじめに】

下垂体神経内分泌腫瘍（PitNET）は術中迅速組織診断で、非腫瘍の下垂体前葉か PitNet か判断に迷う場合がある。鑑別点として、細胞を取り囲む細網線維の構造の乱れや消失が重要な所見となる。そこで、今回我々は術中迅速診断のための鍍銀法（以下迅速鍍銀法）を開発したので報告する。

【方法】

①FFPE 肝臓の 8 μ m切片を使用し、渡辺の鍍銀法（従来法）を基準に染色条件を検討した。0.5%過マンガン酸カリウム水溶液、2%シュウ酸水溶液、アンモニア銀液、0.2%塩化金液のそれぞれの工程を 45°C加温した反応時間。②凍結切片の厚さ 5 μ m と 8 μ m の従来法と迅速鍍銀法。①②について従来法の染色性を基準とし、病理医とともに診断に有用な染色性であるかを評価した。

【結果】

①は 0.5%過マンガン酸カリウム 1分、2%シュウ酸水溶液 20秒、アンモニア銀液 3分、0.2%塩化金液 5分の条件で

有用な染色性であった。②は 8 μ mが染色性は強いが、切片のアーチファクトが少ないことから 5 μ mの厚さを有用とした。

【考察】

45°Cに加温することで、反応が促進したため従来法の試薬でも時間短縮することが可能であった。アンモニア銀液では 1分、0.2%塩化金液では 3分で染色性が明らかに低下したことから、加温による反応促進にも限界があることが分かった。

【結語】

PitNET の術中迅速組織診断は頻度が低く、実施している施設も限られるため、診断に難渋する 경우가少なくない。今回開発した迅速鍍銀法は PitNET の術中迅速組織診断に有用であったが、検体の採取量や採取部位によっては判断が難しい場合がある。今後症例を蓄積しさらに検討を加え、診断に役立てていきたい。（神戸大学病院：078-382-6474）